

## アドミッションポリシー を見てみよう

「入試問題は学部から学生へのメッセージ」というセリフを聞いたことはないだろうか。各学部は求める学生を獲得するため、入試問題に多くの工夫を拵える。では、一体どのような学生を欲しているのか。それを知るために、早稲田各学部のアドミッションポリシーを集めてみることにした。これを読むことで求める学生像と自身との差に愕然としてしまいかもしれない。しかし、どうか前を向いてほしい。そもそも下記に記される様な学生なんて、まずいないのだから。

(人間科学部・スポーツ科学部は割愛)

### 早稲田大学(全学部共通)

早稲田大学では、「学問の独立」の教育理念のもとで、一定の高い基礎学力を持ち、かつ知的好奇心が旺盛で、本学の理念である進取の精神に富む、勉強意欲の高い学生を、わが国をはじめ世界から多数迎え入れる。

### 政治経済学部

受験生に期待されるのは、学習の土台となる母語および英語を核とする言語運用能力や論理的思考力。自身の立ち位置を認識するために必要となる歴史・文化的知識。そして世界中の人々と交流しながら様々な問題に立ち向かう行動力であり、各種入学試験ではこれらの知識・能力を多面的に考查することになる。

政治学科は、学問の独立と自律的な市民社会の確立という建学の精神を受け継ぐ学生を求める。経済学科は経済を中心とした社会現象を論理的に理解し説明することに深い関心と素養をもつ学生を選抜する。国際政治経済学科は現代の国際社会における政治・経済などの諸現象とその結びつきに強い関心を持ち、グローバルな課題を自分たちの問題として分析した上で実現可能な解決方法を探り、地域や世界の発展に役立つ気概をもつ学生を求める。

### 商学部

本学部は、国際感覚・倫理観を兼ね備えた企(起)業家精神を養い、深い学識と教養に裏付けられた実業家を目指し、ビジネスリーダーとして地球社会に貢献しようと志す学生を受け入れたいと考えている。そのために、論理的思考力や社会科学の基礎となる学力が必要不可欠である。広い視野に立つて経済社会を質・量ともに豊かにすることを目指す「商学」の基本理念を理解し、自らの使命や役割を認識した上で判断・行動しようとする人物を求めている。

### 法学部

当学部が求めるのは、文系・理系の枠組みにとられず、幅広い興味関心をもって自らの頭で考える力を持った学生である。受験技術や知識よりも、自ら必要な情報を収集し、自分なりの視点や意見を形成し、それらを論理的に整理・分析し、説得的に表現する力、さらに異なる意見や相反する意見にも耳を傾け、自分の見解を見直し、修正する姿勢を重視する。また、法学を志す者として、いかなる権威をも恐れぬ強い意志をもって、真理を追究しようとする心構えも肝要だと考える。

### 社会科学部

社会科学部が求める人材の条件は大きく分けて3つである。豊かな人間性(自己内で対話する力、忍耐力、道徳、他者との共感的理解、多様性や新しい考えに開かれた態度、自立的活動力)、確かな学力(広く深い社会への知的な関心・想像力・探究心、論理的思考力、それらを支える確かな言語・数量・情報の知識と技能)、および実践力(課外活動の経験による自己管理、自己修正、チームワーク、困難な課題に立ち向かう勇氣、やり遂げる力)である。この3つの条件において優れた個人の資質、活動実績のある者を幅広く日本国内および世界より求める。

### 文・文化構想学部

文学部・文化構想学部が求めるのは、学部の理念・目標を理解し、学位取得に積極的に取り組む意欲があること。また、入学以前に幅広い学習と経験を積んでいて、入学後の修学に必要な基礎学力を有していることが望ましい。それぞれの学部の理念・目標は以下の通り。

文学部は、「人間・世界を深く探り、言語・文学・表現の本質を解明し、歴史的に究明する」、「豊かな学問的蓄積を受け止めて、新しい時代のなかで発展させ、より洗練して確固たる学問として確立する」。

文化構想学部は、「文化の様相と構造を解明し、表象の分析と文芸の創造に取り組み、人間と社会の本質に迫ることによって、新しい時代にふさわしい文化を構想する」、「文学の叡智を現代の課題で照らし、これまでの学問領域を大胆に乗り越えて、広領域的・学融合的アプローチを実践する」。

### 教育学部

教育学部が学生に求めるのは、教科に関する確かな基礎学力に加え、「教える・伝える力」の基盤となる高い論理的思考能力と言語運用能力、さらに異質な他者との関係性のなかで自ら求めて学ぶ姿勢を備えていることである。本学部は多様な学生に開かれた学部であるために、本学部では一般入試、指定校推薦入試、帰国生・外国学生入試、学士入試の各制度を設けている。これらの多様な入試形態により、その能力を総合的に評価する。

### 国際教養

英語で学習するという強い意志を持ち、母語以外の言語で効果的に意思疎通できる言語能力または潜在能力を持つ人物を求めている。また、独自の視点から問題を分析し、それに対する考えを明確に表現出来ることも重要な要素として捉えている。さらに学部の特性上、新しい環境において生活、学習することに挑戦できる社会的・心理的な適応性と柔軟性を有する者がふさわしい。

### 理工学部

3学部で共通して、基礎学力(知識・技能・思考力・判断力・表現力および自ら学ぼうとする主体性)を十分に身につけている者を選抜することが前提だ。基幹理工学部は、数学をはじめとする理工系の素養と共に人文・社会科学系の素養を身に付け、新しい分野に創造的に取り組む意欲と能力を備えた人材を求める。創造理工学部は、科学技術の観点から人間活動を支援し、地球環境に調和する空間・装置・コミュニティの新しい豊かさを創造できる学生を選抜する。

先進理工学部は、自然科学を基礎とした先端科学技術の向上および学際的新領域の創成を目指し、21世紀の「知」「能」「技」を主導的に展開できる人材の育成を行う。そのため、論理的な思考によりその応用にも意欲的な学生を求める。また、国際化を格段に進めているので、入学者は高い英語能力も身につけていることが望ましい。

### 入試問題の印象

早稲田大学からの入試問題は、大学から受験生へのメッセージ。では、そのメッセージを受験生らはどう受け取っているのか。現在の早大生に入試問題の印象を伺った。

政治経済学部「問題はちょろいけど、高得勝負でミスが許されない」

法学部「英語国語むずすぎ、世界史記述多い。受験生男ばっかり!」

商学部「数学むずすぎ! 本当に文系か?」

社会科学部「英語難しすぎ、文量多すぎ。世界史細かすぎ!」

教育学部「癖のない問題」

国際教養学部「国語と世界史はセンターレベル。ただし英語は難易度が鬼」

文学部・文化構想学部「英検利用が穴場! 一般は難しいので英検に逃げよう」

理工学部「英語が早稲田で一番難しい。数学の問題に不備が多い!」

人間科学部「全問マーク回答で難易度は優しめ。ただ『全て選べ』は難しい」

スポーツ科学部「脳筋が多い」

# 入学センターに取材してみた!

大学に入学する上で、入試は必要不可欠。しかし、2020年、2021年の入試は新型コロナウイルスによりその実施すら危ぶまれていた。にも関わらず、早稲田大学が入試を実行出来たのは裏側で働く入学センターの尽力があったからこそであった。今回は、そんな入学センターのセンター課長である城座さんに取材した。



写真は入学センターセンター課長・城座さん。マスク研究会メンバーに対して暖かく対応してくださいました。

——入学センターとはどのような部署ですか？

仕事は大きく分けて2つです。1つは入試実施、2つ目は入試広報です。早稲田の13学部それぞれ入試担当職員がいて、入学センターは各箇所と連携しながら入試を実施しています。入試というと一般選抜をイメージすると思いますが、一般選抜以外にもAO入試や推薦入試などもありほぼ1年中入試を行っています。

入試は若い人たちの人生を左右するものですので、失敗が許されない、強い緊張感を伴う業務です。問題の準備、試験会場の設営、採点、合格発表という入試の流れは、言葉でいって簡単ではありません。また入試広報業務としては、高校や予備校に行って大学説明会を開いたり、WEBや紙媒体で早稲田の魅力を伝えたりしています。

——特例措置としてコロナに罹った受験生も共通テストのみで判定するということが、「フェアじゃない」という意見もあります。城座さんはどのようにお考えですか。

そういう声がネット上に一部あるのは知っています。ただ、「フェアじゃない」と言っている人は、表面的にしか見てないと思います。

たとえば、一般選抜の3科目を受験した人と、共通テストの3科目を受験した人を、同じ土俵で判定しているのであればアンフェアですよ。だけど、早稲田の特例措置の可否判定は、一般選抜とは別枠で扱っています。つまり、一般の受験生が不公平な扱いを受けるとか、合格者が減るといったことはありません。

上準備に費やしてきたのに急に入試制度を変えられるのは納得いかない」と思うでしょう。入学センターとして予定通りに予定された入試を行うことが、受験生に対して一番真摯な対策だと思います。

——城座さんは受験勉強をどう考えていますか？

誤解を恐れずに言いますが、大学は「たかが大学」なんです。早稲田に合格したからといって人生が保証されるわけでもないし、大学受験に失敗したからって人生終わるわけでもない。

しかし、「それど大学」という言い方もできて、息子にも「20歳前後の若い時期には、どういう友人に囲まれるか、どういう環境で勉強できるかで怖いくらい人生が変わるよ」と話しています。入れる大学に行くのではなく、「ここで勉強したい」と思える大学を早く見つけてもらいたいです。もしそこが難関大学なら、石にかじりついてでも入る気構えで勉強をする価値は絶対ありますよ。

——城座さんから早稲田生へ向けて、メッセージをお願いします。

早稲田は多様性を重要視していて、昔から「人種のおぼろげ」も表現されてきました。学生は世界各国、日本全国から集まっています。留学生の数は日本一ですし、早稲田大学はいろんな価値観の器であり続けたいですね。同じ日本人、同じ年齢でも、出身が違えば空気感や価値観が違う。留学生ならばなおさら考え方が違いますよ。

## アフタートーク

多様な学生たちと昼は授業を通して、研究・討論して、アフタースクールは、サークル活動やボランティア、アルバイトをする。そういう貴重な体験を通して、人間としての幅を広げ自分を磨くことができる環境です。若い貴重な4年間を、人、モノ、金、情報が世界から集まってくる東京の人種のつぼみである「早稲田大学」で過ごす意義は大きいと思います。これが早稲田の魅力です。

早稲田大学のカリキュラム、制度を使い倒す勢いで食欲にいろいろなことにチャレンジして、有意義な学生生活を送ってください！

城座さん…またキャンパスで見かけたら声をかけてください。昔は学生ともっと接点があったんだけど、今はコロナでほとんど学生と接点がないから寂しい。マス研員…ありがとうございます。入学センターは学生と関わりがあるのでしょか。

城座さん…関わりありますよ。入試は決して教職員だけじゃ回らないから、応援部をはじめ、多くの学生に協力をお願いしています。一般選抜で入った人いる？ マス研員…はい。大隈像の前で応援部の人が案内しているのを見ました。

また、早稲田大学はおそらく日本の大学で「早く」(コロナに罹患した受験生の救済策として) こうします。だから、心配な人は共通テストを受けておいてください。という方法を決定して、広報を始めました。受験生や高校の先生方からも高い評価を得ました。手前味噌ですが、良かったと思います。

——2021年度の入試について、コロナの対応策や大変だった点があれば教えてください。

一言で言うなら、とても大変でした(笑)

たとえば、換気設備の更新や受験会場の席の間隔を空けたり、アルコール消毒液を設置したりと通常ではあり得ない対策が噴出しました。その中でも一番大変だったのは「こんな状況で入試やるの!?!」という疑問が学内外から当初あったことです。高校生を入試会場に集めるというこれまで当たり前になっていたことが当たり前でなくなってきたなかで、マインドを保つこと、「絶対に入試をやる」という流れを作ること苦労しました。

それでもこれまで通りの入試にこだわったのは、「入試を予定された日に予定通り行うことは、大学としての義務」だと思うからです。今年の一部の国立大学でも予定通りの入試が行われないということがありました。たとえば、某国立大学はいきなり2次試験を中止したりとかね。コロナ対策だから仕方ないという意見もある一方で、某国立大学を第一志望にしていた子は「一生懸命1年以

城座さん…駅の方には案内の看板持って受験生を安全に誘導してくれていますね。早稲田の入試で面白いのは、学部学生も採用していること。学生たちはとても真剣に従事してくれている。全国でも数少ない大学の1つですね。

マス研員…他の大学も試験監督は学部生だと思っています。

城座さん…早稲田は「補助監督員」は学部学生も一部従事してもらいますが、補助監督でも学部学生を採用しない大学の方が多いよ。「学生には任せられない、不安だ」という大学もあって、外注するところのほうが多いと思います。

マス研員…早大生は信頼されていますね。

城座さん…だからたまに早大生の不祥事がニュースになると、とても寂しくなります。殆どの学生がしっかりしていることを知っているので(笑)。

マス研員…早稲田はネームバリューがすごいので、良くも悪くも大きな話題になってしまいますよね。

城座さん…悪いニュースほど「早稲田!」って出て、大きく扱われちゃうから(笑)。しょうがないですけど。





## オンライン留学生に取材してみた!

コロナ禍で新たに広まった「オンライン留学」。今回は日本からシドニー大学に留学し、ツイッターとブログでオンライン留学の情報発信もしているらこさんに取材しました!



**らこさんプロフィール**  
 基本情報…国際教養学部3年  
 留学期間…2年生の2月から1年間、オーストラリアのシドニー大学に進学  
 長期海外経験…なし  
 ツイッターユーザー名: rako\_nady

### ・シドニー大学を選んだ理由

シドニー大学は「濃いオンライン留学プログラムを行う」と告知していました。オンラインでのイベントも豊富で、日本との時差もありありません。オンライン留学先として最適だと考えました。また、アボリジニ言語に興味があったことも理由の1つ。オーストラリアならではの授業を受け、アボリジニ言語について理解を深めることができました。

### ・疎外感のあったワークショップ

文化理解のため、アボリジニの方々と交流するワークショップがありました。しかし、学生のうち私だけがZoomでの参加。屋外での開催だったこともあり、アボリジニの方々が何を言っているのかわかりづらかったです。また、みんなで輪になってダンスをする場面では、現地の学生が楽しそうに踊っている様子を1人でパソコンから眺めていま

た。もちろん、オンラインでの留学では現地での経験ができないと理解していました。しかし、この時ばかりは疎外感が増してしまい「現地での留学だったらな」と思っていましたね。

### ・留学を通じての成長

留学を始めた当初は人前でうまく発言ができず、急に話を振られてあたふたして、「もっとい言いたい方があったはず」と後悔することもよくありました。たとえば、100人以上が受けている授業で日本文化についての説明を求められた時。自文化の説明を英語で行うのは想像以上に難しく、詳しく説明しようとすると単語が浮かばず話せません。説明を求められたのに話せなかった、日本人なのに日本文化の説明ができなかったことに、挫折感を味わいました。しかし、何度もディスカッションを経験するうちに、自信を持って話せるようになりました。大事なのは「とりあえず発言すること。海外では的外れな意見に対しても「それはいい視点だね」と褒め合う雰囲気があります。「間違えても大丈夫」という安心感から、堂々と意見を言えるようになりました。最近では他の学生のプレゼンに対して自分の疑問点を正確に伝えることができ、自身の成長を感じました。

### ・オンライン留学の情報発信を始めた理由

私がオンライン留学を決意した頃、それに関する情報がインターネット上に少なく、有意義な情報を得られませんでした。オンライン留学を経験した先輩に話を伺いましたが、留学期間の途中からオンラ

インに切り替わった方が多く、参考にできないこともありました。そこで、今後オンラインでの留学を選択した学生が少しでも情報を得られるよう、自分が知っていたことを中心に発信しようと思いつき、オンラインでの留学は不安な点も多いと思うので、少しでもお役に立てれば幸いです。

## DDDのススメ

早稲田大学にはダブルディグリー(以下DD)という制度がある。早稲田大学を卒業して学位を取るとともに、留学先の大学の学位も取得することができるのだ。通常の留学とは異なり、大学の正規学生として扱われる点も魅力だろう。もちろんそのためには高い語学力を必要とするため、厳しい審査をくぐり抜ける必要がある。

パンデミックの中、DDでの留学もオンラインになってしまった中でも、DDならではの魅力があるようだ。

半年の現地留学と半年のオンライン留学でDDを取得したIさんは「オンライン留学でモチベーションを保てたのは、DD取得が留学の目的だったから。DDは終わった後にも学位が貰えるので『学位に向けて半年頑張ったのだから、もう半年頑張れるよね』という気持ちでした。現地での生活体験を望む人にオンライン留学はお勧めできませんが、DDを取るためならいいと思います!」と語っている。

留学をするなら、学位もついでにDDを目指してみたいかがだろうか。

## 教務部に取材してみた!

2020年2月から広まった新型コロナウイルスの蔓延により、大学もオンライン授業を始め多くの対応に追われた。そんな中、7.5億円の空調設備といった数々の対策を打ち出してきた早稲田大学。その裏側を教務部事務副部長・根本さんに突撃取材した。

### 教務部の仕事内容

教務部の業務は非常に幅広い。たとえば、コロナ禍での大学の授業運営方針の試案作り。オンライン授業導入の手助けや、コロナによって入国できない学生の対応策などを考えている。入学式や卒業式といった式典も教務部の管轄だ。

### 2021年春の入学式を、1年生・2年生を対象にして行った理由

早稲田大学としては、総長を中心に「対面授業を増やす、学生が登校する機会を増やす」ことにごだわっていました。大学の入学式は生涯に一度の大切なイベントですからね。もちろん、学内外から「まだ感染が収束しないので、人を集めないでほしい」といった反対意見もありました。それでも学生さんのことを考えて、感染防止策を行った上で実施しました。

2年生から「入学式楽しかった」という声も聞き、特に2年生に対して対面で入学式を行って本当に良かったと感じます。私自身早稲田大学の卒業生なので、かつて何度も歌った校歌を1年生、2年生が歌っている姿には胸を打たれましたね。皆さんもこの1年苦労しただろうと考えると、感慨深くなってしまって(笑)。学生の楽しみは、なんとか死守したいと改めて思いました。

### コロナ対策会議の発足

去年の2月くらいからコロナ危ないぞってことで、大学で「新型コロナウイルス感染症対策本部会議」という対策本部をすでに作っていたんですよ。対策会議はさまざまなメンバーで構成されていて、総長や大学理事、教務部、国際部、学生部など色々な部署のトップ。加えて、保健センターの職員や医師免許を持つ先生も。まだ世間のコロナに対する知見も不十分であり、相反する意見も多いことから、初期は一つ方針決定にも大変な議論を続けることもありました。昨年度春学期を全面オンラインにするってことを決めるのも、相当紛糾しましたね。昨年2月以降は土日祝祭日も含め夜となく昼となく動いていて、本当に大変でした(笑)。

### 7.5億の空調設備の裏側

十分な換気設備を持たない校舎では、対面授業の再開も入試会場として教室を使うことも難しいです。早稲田大学として、空調設備には投資する価値があると判断しました。実際、2021年6月現在までに教室内でのコロナ感染は確認されていません。メディアや保護者から対面での授業を批判される際にも、学生と教員の日々の感染十分な換気能力、教室内でのコロナ感染がないことを説明しています。

しかし、全ての校舎で空調設備を整備した訳ではありません。実は、設備を改善したのは古い校舎が中心でした。3号館や11号館といった比較的新しい校舎は、すでに厚生労働省が打ち出す換気に関するガイドラインを満たしていました。一方で、15号館や16号館のような築年数の古い校舎を中心に設備の改善が必要だったのです。

やはり、教育学部の16号館は古すぎたのか……